

モーツァルト／歌劇「魔笛」K.620 より序曲

1791年にモーツァルト（1756–1791）が完成した生涯最後のオペラ《魔笛》は、それまで吸収してきた様々なオペラの書法が投入されている。イタリア・オペラ風のアリア、バロック風のコーラル、ウィーンの民謡風のメロディと、そのスタイルはじつに豊か。しかも夜の女王とかエジプトの高僧ザラストロといった不可思議な役柄の背後には、自由・平等・博愛をモットーとするフリーメイソンという秘密結社の思想があって、単なるメルヘンではなく、より真摯な主張が隠されている。

重々しい和音が5回響いてはじまる序曲は、アダージョの序奏とアレグロの主部から構成されている。この対比は序奏のヴァイオリンによる柔らかいメロディで暗示される女性のフリーメイソンと、主部の終結部の輝かしさで象徴される男性のフリーメイソンの対比を表しているとも言われる。主部はソナタ形式で、冒頭の軽快な主題に基づいて、バッハ風の対位法が駆使されている。

※掲載された曲目解説の無断転載、転写、複写を禁じます。

白石美雪